

創刊号によせて

日本作業療法教育研究会会長
矢谷 令子

平成6年、秋より、関心者の意向を募り、平成8年初夏に34名の有志により、「日本作業療法教育研究会」を発足しました。本年はその第5回の研究大会を迎える運びになりました。皆様の熱意のもと、現在、会員は123名です。日本に作業療法の教育が開始されて37年が経過し、作業療法の学校養成施設は97施設、在籍学生数は1万人を超えています。昭和38年、日本初の在籍学生数は5名でした。社会の養成に応じて成長してきた現況下にあつて、その責任を痛感し、作業療法士教育の充実化を志す者の研究会発足は当然のことと考えます。

これまでに作業療法の教育課程は、1966年に始まり、72年、89年、99年と改訂されてきました。改訂は10年に一度といわれていますが、時代背景の変化や未来を見据えて行われるはずですから、非常に重要な役割を担うものであり、かつ、興味深く各校の科目構成に学ぶことができます。1991年に大学の自由を大きく認めた文部省の大学設置基準の大綱化に始まり、独自性、個性の発揮は小中学教育にも奨励されてきました。荒廃する中学高校の現状からも、教育振興の基本計画が叫ばれ、首相の私的諮問機関「教育改革国民会議」が発足しました。“規制”も“ゆとり”も望む効果につながるものが少なくないとなれば、本当の教育改革とはどこから、誰から、どのように始まればよいのでしょうか。

実は、本研究会の発端も、日常の現実的なところで、何を、どうしたらよいのか、何とか作業療法の教員、臨床教員の指導者同志が、交流し、相互に助け合うことはできないものだろうか、作業療法の教育そのものについて、具体的な教材や教授法から学びあうことはできないものだろうか、というところから始まりました。本研究会の目的のひとつに、作業療法教育のよりより充実・発展の追求をあげました。昨今の養成校の急増にともない、すべてのことが新しいという養成校、また、教員の数も増えて戸惑いもあるようです。30年あまりの経験を持つ養成校もあり、相互に持ち合わせた特色、能力、エネルギーを交流させ、“教育”の二文字を多側面から研究し、より良い成果が卒業生のものとなり、対象者の方々に反映できますこと、私たちの先輩としての役割と考えます。

過去4年間にわたる研究資料などを投稿下さいました原著を主に、この度、本研究会誌創刊号の発行にこぎつけました。会誌名は“作業療法教育研究(Japanese Journal of Research for the Occupational Therapy Education)”です。拙誌ではありますが、会員一同と共に世に送り出せますことを心よりうれしく思います。成長し、お役に立てる一冊になりますには、まだまだ長い道程をたどることでしょうが、その第一歩を祝いたいと存じます。今後とも、本誌をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。